

※カッコ内は明確化のため加筆したものです。

①冒頭部分

星野：はて、それでさ、今日の話は誰も知らない。

泉田：ええ。

星野：これはまあ、俺も今日あんたと話して、あなたと話して、そして結論を出していかないと、間に合わない。と俺はまあ思うよ。あなたはあなたで情報を取っているかもわからないけど。いろいろ情報というのはね、その市区町でもね、報告ベースでしかないから。（ゴソゴソと資料か何かを取り出す音）……ある人がね、あれしてくれて、あなたは見てないと思うんだけど。5区のこと、5区のこと。調査が。8月くらい。

泉田：はい、

星野：お盆過ぎから。

泉田：はい。

星野：二十…

泉田：どん底ですね、これ。

星野：ああ。これが……なんだ……これトータルか。合計だね。ね。

泉田：人数。はい。

星野：うん、まあまあ人数の合計だね。16%、米山（隆一）が37%、森（民夫）が15%と。こうなってんだろうな、きっと。きっとそういうんじゃないか。まあまあ、そうかといって、まだ未定がほら、ね、3割もあるわけだから。（がちゃがちゃ音）ちょっと見てみて。

泉田：はい。

星野：見てないでしょ、まだ。

泉田：見てないです。

星野：見てないはずなんだけど。

泉田：ええ。ええ。（若干、間が空いて）……………

まあ、いろいろありますから。我々の取ってる数字とは、ねえ、なか

なかこういろんなギャップもあるし。

星野：ど、ど、どういう数字取ってんだ。たとえば、どういう数字が出た？

泉田：え、うちですか。だからあの、米山トップ、次うち、で、圏外が森さんという数字が出てます。

星野：うん、それでいいね。それでいい。それでいい。これはどうなってるんだ。俺も、よく見てねえんだけど。

泉田：えーと。米山トップ。泉田。で、森。

星野：森……森さんは、これだろ。これだよな？

泉田：それぞれそれ。

星野：まだ決めてないというのが、これだけあるわけだろ。(パン！と椅子の手すりかなにかを叩く。)

泉田：そうです。そうです。

星野：流れ……だもんな。それで、このまんまでもしこう、流れでしかないけど、俺、何千回も見えてきたから。50年の間にね。

泉田：ですよ。1回目の知事選挙の時だって、負けてたんですから。

星野：ああ、ああ。そうだけど、最後になって五分五分になったんだよね。あの大学の先生だから。そうだよ。これが流れと思って見ればいいんだけど。ただ、あなたが今勝ってるってことは言えないわけ。ね。党本部は、もう少し、あなたの方がいいようにみているらしい。

泉田：うん、そうなんです。

星野：うん。

泉田：そういう風に聞いてます。

星野：だいたいイメージあってるのが間違いない。あなたもさ。だから、ひとつの見方として、これはこの会社は東京の会社なんだけれども。

泉田：はいはい。

星野：そしてね、(カチャカチャと食器の音) これを見てだね、これがおやっと思ったのがね。森が……開いてねえんさなあ。女性票もねえ。米山があんたより上回った。それはね、何かと言うと、かあちゃんが頑張ったんだよ。米山のかあちゃん。

泉田：うん。うん。

星野：かあちゃんが

泉田：ええ。

星野：頑張ったんだよね。だから、どこらか書いてあったなあ。これかな？女性。

泉田：ええ。

星野：ね、女性。これはあんた。これ米山。森。未定。でしょ？  
ね。それを見ると、少なくとも女性票をあんたは圧倒すると思うたわけ。

泉田：うん。うん。

星野：俺の計算はね。あの（ゴソゴソ音）お盆前まで。〇〇女性票は思ったところは、米山のやっぱりかあちゃんが、米山の女性問題を払しょくしちゃったね。と俺は読んでる。誰とも相談できないから。このことは。

泉田：宣伝も上手にやっていますよ。

星野：うん？

泉田：宣伝も上手にやっていますよ、彼は。奥さんの評判がいい……って情報を流してるのもまた拵がっているんですよ。

星野：間違いない。間違いない。間違いない。俺なんか、耳に入るのは、ごくわずかな情報でしかないんです。そういう情報はね。わずかでしかねえんだよ。俺昨日……ちょっと飯食べてるとき俺、小野（峯生）幹事長と話して。協力来たかって、党本部払わないって。今回は。それで、あなたには、わりあい、泉田さんもわりあい、ああいう銭はだめだけれども、銭選（ゼニセン）知ってるっていう話だった。ゼニセンキョ（銭選挙）って言葉だった。昨日の話ね。で「二つやるんだ」ってときに、「やるんだったらひとつ」って言ったら1区……（注：小選挙区で落ちると言われていたのが、1区と5区のふたつ。1区は塚田一郎氏）

泉田：うん…うん…うん。

星野：そういう情報だった。本当だろうと思った。まあ、あの小野君もね。いろんなこと言ってきたし、うん。まあ、おまえさんの知事時代からみると、あの時まあね、馬鹿でもってさ、ねえ。まだ先読めねえ人間だったでしょ。

泉田：うん。

星野：あれからね、やっぱりちょっと苦労してね、苦労させられて、伸びてきた。人間的にも。

泉田：ようやくまとめる側に回って。

星野：そういうこと。

泉田：そういうことですね。攻めるだけじゃなくて。

星野：そういうこと。やっといい子(頃?)になってきた。それでね、もうちょっと、もう少し経験させればね。特に(即に?)上京して、党本部行ってね。コウケン?でもね、メイヨ?くれって、……せば。頭回らねえか。回らねけば、まあまあここまで俺がね。言う必要もないし。石井みたいに「支援どうせえって、いやあ俺はもうはや絶縁したんだから。俺はもう冷戦したし」と昨日の……ま、でも、総裁選挙も1年ぐらい、1ヶ月ぐらい延びそうだっていう今回ね。

泉田：総裁選挙というより、総選挙の方。

星野：総選挙ね。

泉田：終わってから、日程決めたら、ちょっと延びそうですよね。

星野：11月に、なるんじゃないかって、倅が今日教えてもらった。俺は、テレビ見てねえから。

## ②核心部分

それで泉田さん、勝とうさ。どう思うね。

泉田：やっぱり小選挙区で勝つかどうかで、全然違いますもんね。

星野：もしさ、比例で引っかからなかったら、終わりだよ。(何かをパン！と叩く。)

泉田：ええ。ええ。

星野：このままで行ったら、比例引っかからないんだから。(喋りながらパン！と叩く音) だめだね。このままでいったら、比例(パン！音)引っかからない。比例にも引っかからない。(パン！パン！と叩く音) だからこれさ。もう俺も、もうあんたも、考え同じだと思うけれども……選挙しくじってやられるのは、あなたと俺なんだよ。はっきり言うと。誰でもないんですよ。俺がいるからみんな好きなこと言ってもらえるけれども。無責任な発言ができる。最後は星野です。星野ですよ。(パン！音) これがあるんですよ。選挙の時ってのはそういうもんなんだけどさ。これひとつさ。克服しようさ。それでだね。今、俺は一方的に話しているけどさ。とにかく必要経費を早く撒こう。もう余裕がない。選挙始まってからなんて撒く馬鹿いない。今だ。今でも遅いくらい。(パン！音) ね。ここに2000万や3000万なんかもったいながったら、人生終わるよ。ね。そこなんだよ。ねえ。それは、あの大部分は領収書もらえるやつだから。これね、いちいち警察に報告してやるわけじゃねんだから。ねえ。これはね、早くしないと。後で悔いが残ると。1億や2億の話でなくなるから。そんなもんじゃなくなるから。ここでひとつね。検討というか、早く実行すべきだな。これはね、そうしねえと。………できたらアタマ取りてえよねえ。100票でも、200票でも、いいから。アタマ取りてえよね。あー。メンツがあるよねー。だから俺はこうやってわりあい……うちの市会議員、きのうもううちの市会議員全部集まってくれてる、集まってくれて、ポスター配布だとか、資料のこの配布やとか、あるいは選挙の時は、ポスター貼りぐらいは、やらなきゃだめよと。さっき電話してきた。そうなんだけれども。

### ③あまり重要でない部分

で、丸山勝総（長岡市議会議員）は、どうも A 秘書（泉田議員秘書）と合わないんだなあ。なんか、嘘かほんとか知らんけども、昨日か電話きたな。車乗ってて。A 君と、A 君の方から厳しいと。やっつけられないと言われたと。こう言うからねえ。もうもうもうと。B（星野県議の運転手兼秘書）もいることだから。変な話できねえから。まあまあと。言っておいたけれども。事實はわからんけれども、それでね。（小鳥の鳴き声）

俺が、なぜ丸山勝総を代表者にしたかっていうと、もう気づいてると思うけど、あれ人柄なんですよ。他の市会議員なんかたまったもんじゃないですよ。喧嘩ですよ。その日から A 喧嘩。何をこの野郎って言うのばかりだから。ところが、勝総さんだけはそうじゃないんだよ。はあ。人望あるし。ね。みんな自分で飲み込む人だから。苦しむんだよ。だから。苦しむ人間なんだけれども、まあ話をしてるのは穏やかだ。で俺は最初からアタマ入ってきたのは勝総しかいねえなって、もうひとつの丸山（広司長岡市議会議員）もいるんだけれども、あれも、選挙の「せ」の字も知らないから。はっきり言って。悪い人でもないし。いいんだけれども。選挙の「せ」の字も知らない。それで全体を見てやれるとなると、五井（文雄・長岡市議で長岡支部幹事長）しかいないんだ。

泉田：ああ、そうですね。

星野：俺も、長い間やってきてるけれども、小熊（正志）が俺の片腕してる時よりも、五井の方が見えたね。小熊も気づいてくれた。こうしましょうか、ああしましょうか。いいよいいよ。これでいい。……

（聴取不能）全体を見ながらやってきたのは、五井なんですよ。だから今俺は五井を完全に幹事長以前に議員団長にして……いるんだけれども、五井だってね、A や、あといろいろまとめるってやりますよ。やる。やるとやらないのは誰かっていうのはいわない。丸山（勝総）しかいないんだから。勝総だったら飲み込めるんだよ。思ったことも、彼は飲み込める。だから俺は丸山（勝総）だよって言ってるんだよ。……五井の了解を得て、なかなかお前は人の立場も言うし、俺

の後援会の議員団長でもあるし、〇〇になるけれども。総体的な親方は勝総にしようと思うがどうかって聞いたら、そうしてください。私もそう思いますと、それじゃ俺、泉田事務所に話してみますと。A君に電話入れて、言った覚えがあるんだ。あるんだけどなあ。

泉田：うん。

星野：さりとてさあ。まあ俺、個人的に考えればさあ。A、選挙触るなんてこと言えるわけねえんだよなあ。そうでしょう？こんな面倒なところへやあ。

泉田：そうですよね

星野：はあー、だから、あなたにしてみれば、いろいろ使ってきてるわけだろう

泉田：もともと、ほら、C、いたでしょ。(渡辺)秀央さんとにいた。ここれ大変。

星野：(声が大きく)Cの悪いところは、全部調べました。あの当時さ。(さらに大きく)嘘をつくこと。

泉田：そのとおり。

星野：いいすか。彼が言ってる話は9割嘘だからね！

泉田：そうなんです。

星野：で、A知ってる？

泉田：知ってる。

星野：これ。いいすか。彼の持ってくる情報はさ。実はあの人はこういう人ですってのは、全部嘘だからね！

泉田：嘘と嘘で、人をくっ付けたって武勇伝する人だから。

星野：そう！

泉田：そうなんですよ。それで秀央さん怒ったんですよね。出入り禁止になったんですよね。

星野：そう。俺はもうね、俺はもう見抜いた。目を〇〇。どちらかというとなCさんの話は。裏を取れるわな。県会議員も。逆ですよって。大方。

泉田：ひどかったですよ、だから。

星野：だからね、いいよ、わかった。嘘をつくのが彼のすべてだと、今日はわかってもらえればいい。

泉田：そうなんです。わかってます。

星野：それがね。すべてなんだて。俺全部、裏取ったんだよね。あの時。

泉田：私も、苦しめられましたから。

星野：うん。なんでこれがさ、星野さん、あこ（あそこ）行ったらあの人、こう言ってましたよ。これ滅茶苦茶。2, 3回。反対。おお、そんなこと言ったかー。だめやと思うなあと言うけどもあるでしょ。とんでもないですよ。その逆ですよ。ええ↑ ね。人を陥れることなんてわけねえんだよね。

泉田：だからそういう意味で、A の情報の方が正しかったんですよ。

星野：だと思ふな。俺もね。俺もねー。これだけ嘘をつける人間、人を陥れることができる人間ていうのは珍しい。俺らは裏を取ればなんだってなる、裏を取らんば、信用する人いるじゃないか。ね。でも俺は、あんた、よく切ったと思いますよ。喧嘩なんかする必要ない。喧嘩ばっかする人を切ったってことは、正解。

泉田：あの一だから、だから市議の皆さんからも、あれだけはっていう話を聞かされて……でえ、裏を取ると、大嘘。

星野：大嘘つきなんだよね。昨日会った人も、ね、一発問合せするなんてこと考えねえよね。

泉田：自分で言ったこと忘れる。

星野：それでDがね。栃尾のDがね。ほうしたら、Cがおまんところ行ったっていう。ダメだー。そっか、俺行って言うわ、って言ったけど……（聴取不能）



#### ④再びの重要部分

星野：まあさ、泉田さん。勝負やろうや。ね。これはね。2000万や3000万の金をね。惜しんで、一生を投げちゃいけない。いけないよ。

泉田：うん。だからあとね、違法行為にならないようにしないとけないので。

星野：そ、そんなものはね。いいですか。はっきり言うよ。言葉の問題だけであって、実際は、(パン！と叩く音) そんなもの気にしてる候補者なんか一人もないからね。それと、米山君は、「これ」(泉田氏の話によれば、大仏様のように、親指と人差し指で丸を作る手振り) 使うこと知ってるからね。

泉田：……

星野：お願いします……(泉田氏の話によれば、横長のものを差し出しながらお辞儀をする身振り) って、こうですからね。

泉田：う～ん。

星野：それはすごいよ。

泉田：先生のところにも、来ました？

星野：誰が？

泉田：米山さん？

星野：いやいやいや、今回自民党離党してるから、ね。来ない、来ない。そんなことすることはない。森だってもう、選挙で一番になることはないから。そんなこと言えば、俺がこんだ、はかされちゃうから。黙ってねえもん。彼だって割合柔らかいんだもん。これが(泉田氏の話によれば、大仏様のように、親指と人差し指で丸を作る手振り)。割合柔らかいんですよ。(斎藤)隆景(元県議会議員=故人=)がみんな話していた。あの当時ね。俺は、ほんっとうに、打ち消すのに大変だったんだから。隆景から聞いた話は、全部本当なんさ。

泉田：ふん、ふんふんふんふん。

星野：米山言うが一。でもあの当時ねえ。「これ」(泉田氏の話によれば、大仏様のように、親指と人差し指で丸を作る手振り) やっぱり、すごかった。

泉田：なるほど。

星野：相当使う。

泉田：うん。

星野：その辺のことはね、面白い性格だね。

泉田：先生、ちゃんと寄附できるときに言ってくれば良いのに、どうすればいいんですかねー。

星野：だからさ、この話は、もう、早く言えば、Aの耳にも入れてはならない。あんた一人。一人の腹。一人の腹にして、そして、そして、誰か信用できる人を使う。あんたの、いるので信用できる人。だーれにも、言っちゃならないこれは。この話は。(咳払い)

泉田：でも、撒かないとだめなんですよ。

星野：うん。撒くというのは、ばら撒くんじゃねえちゅって。(咳払い) 実力者、地区、地区の。たとえば。たとえば、南魚沼と言え、井口(前南魚沼市長井口一郎)さんですよ。

泉田：だから、南魚沼は先にもう振込んだんですよ。あの、寄附できる期間に。

星野：(小さい声で) ふーん。

泉田：うん。

星野：でありゃ、これこのままにしておかんねえよね。(激しく咳払い) だって、Aもあんたも、俺に何も聞かねえんだもーん。聞けば俺言ったよ。

泉田：だからあの、寄附の期限があるから。あれ、でも事務所に聞いているはずですよ。寄附の期限があるから、あの一、この期限に言ってくれと。

星野：……いや、そういう、またそれとはまた違うんだよなあ。それとはまた違うんだよ。俺の言ってる意味はね。だから、俺のほうから、あれだよ？ちょっと……ちょっとやっておいたよ？長岡市議に。食事代とか車代とか。

泉田：あの、うちからも、長岡支部は、もう、あの寄附してます。

星野：した？

泉田：ええ。

星野：……〇〇かなあ。とにかく、これねえ。この辺が、ひとつのね。あんたのどこのアヤだと思いうわなあ。そら、あんたが、いいと、ね。

このまま行こうと。なら俺も従うさ。

泉田：だから、結局、あの広島であったでしょ。

星野：(やや声を荒げ) だから、そんなこと言ったら、キリがねえから。ええ。そんな話は表面の話なんだ。ええ。絶対だめだよ！っていうのは当たり前。裏はそういうもん。みんなそういう世界なんだから。

泉田：ふん。

星野：はあー。(深いため息) あの、長島(忠美元衆議院議員=故人=) だってそうだったんだよ。(聴取不能) 表面は、うつくしそうな顔してたけど。俺は、長島からは1円ももらってない。はっきり言って。1円も。俺の選挙もお前がやってくれてるんだから、俺もダメだからな。(聴取不能)。

泉田：なるほど、わかりやすいですよ。実際、そうでしたもんね。

星野：うん。

泉田：お互い後援会長になってる。

星野：だからね、いいですかと。ああ、いい。他の者にくれてやってくれ。俺はいいから。

泉田：うん、で、お話しはわかりました。

星野：うん、それはあんたが、それでみてさ、小千谷、北魚沼、細かくやらないで、信用できる人に、アレしてくれれば、必要経費らこてね(「必要経費ということですよ」の意)。領収書等々、もらっといて下さいよ。(語気を強め) ここがアヤヤからね。

泉田：ところがだめなんです。寄附禁止期間に入っちゃってるんですよ、今。

星野：え？

泉田：今、寄附禁止期間に入ってるんですよ。

星野：言葉のアヤ！

泉田：うん。

星野：これ、そうすれば、いろいろあんたに対する、事務所に対する、いろんなことをグダグダグダグダ言うけれども、俺を同類項だと思ってるからね。みんな俺に話すんだよね。俺の腹が違うというのをみんなわからんわけね。やるのか・・・気が付いてるのが二人いるんですよ。泉田派なんだなあってことを理解してる。五井と丸山ですよ。

あれ、三回ばかりニューオータニで、胡蝶の間で飲んでるからね。一昨日も俺に丸山が「星野先生は、何を考えているかわかりません」って俺に言うから。わからんわけ。ね。聞く耳はもってるわけだから。「そうか。とんでもない野郎だな！A！何？」って言うけど、最後にするのはそれと逆のことを言うわけでしょ。

泉田：勝総さんには、ピシッと言わないと、

星野：ああ？

泉田：ピシッと言わないと、行間、あんまり読んでくれないんですね。

星野：だから、五井は読んでますね、五井はさっきの電話で、こういう風にして、総務だけで配るようにしたけれども、党员も全部配るようにして。全員に、全党員に。今朝の五井の電話。

泉田：うんうん。

星野：だから五井にたまに電話してる？

泉田：わかりました。

星野：礼は良い。10円で済むんだから。よろしくね。

泉田：わかりました。わかりました。わかりました。

星野：俺の腹は、どこにあるかていうのは、はや、わかるから。俺の喜ぶこと言ってらんだ、全党員にね。配布しろって。たったさっきも電話きたんだ。ね？ありがたいでしょ。だから、あと小千谷から向こうの人には、県会議員は、同じだと思ってるわけ。

泉田：うん

星野：不満たらたらだと思ってるわけ。

泉田：うん。うん。うん。

星野：だから、何でも俺に言うわけだ。

泉田：うん。

星野：それでいいんですがね。

※お金の話は終わり。